

図 白色資材の設置状況



表 白色資材全面被覆と対照の収量・販売額の比較

処理区	側面資材	通路部資材	商品果収量 (kg/10a)	販売額 (千円/10a)
白色資材 全面被覆	白黒ダブル マルチ	白色防草シート	655	8,731
対照	なし	黒色防草シート	586	7,896

イチゴ「ゆめのか」高設栽培 コスト・労力 上回る効果

県のイチゴ栽培には冬季の日照不足を補う光環境の改善が必要だ。これまでの研究では「ゆめのか」の高設栽培で光反射資材を使うと収量が増加することが判明しているが、資材コストの高さなどから現地での普及は進んでいないのが現状だ。そこで、光反射資材よりも約20%安価で日光を反射できる資材として、高設部の側面に白黒ダブルマルチを、通路部に白色防草シートをそれぞれ設置し、全面被覆した中で栽培を行い、収量とその収益性について検討し

た。その結果、白色全面被覆は側面資材なし、通路部資材黒色防草シートの対照と比べ、商品果収量が約10%増加し、販売額が10ア当たり約84万円増加すると試算された。同技術は資材コストや設置労力が多少増加するが、それを上回る増収効果が得られる。今後、同技術が普及することで県内産地の収量が増加し販売額の向上も期待できる。(農林技術開発センター 農産園芸研究部門 峰孝介)

白い資材で増収

現場で使える！研究成果